



北陽同窓

会報・第9号

北陽高等学校

同窓新聞

1988. 6. 25. 発行

編集発行

会報委員会

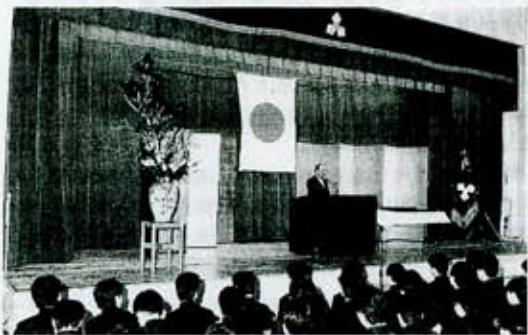
委員長

藤井 文太郎

在校生の一年間の出来事の中から



昭和63年4月 入学式



昭和63年2月 卒業式



昭和62年10月 文化祭



昭和62年9月 体育祭



昭和62年11月 サッカー全国大会出場の決った大阪府決勝大会



昭和62年12月 沖縄へ修学旅行

母校の近況

校友の皆様、ご健勝でご活躍のことと存じます。平素は母校のためにご支援を賜わり、厚く御礼申しあげます。特に今春、硬式野球部の甲子園出場に際しましては、物心両面から格別のご協力・ご援助を賜わり、まことに有難うございました。結果はご期待にそえず、準優勝した東邦高に初戦で当たり、健闘空しく敗退いたしましたが、関係者一同皆様のご声援に深く感謝いたしております。

月日の経つのは早いもので、北陽も創立以来64年を迎えます。現在地の上新庄に校舎が移ってからも9年になります。この間、摂津市に第二グランド(約3,200坪)及びテニスコート(約1,000坪)を創設、体育館の改築等も完了しました。この新しい施設を活用して生徒達は今まで以上に快適な高校生活を享受しております。

昭和55年ごろから急増し続けた高校入学者数は、今年でその頂点に達し、本校でも志願者3,252名のうち677名が入学してまいりました。従って全校で1,846名(40クラス)という未曾有の規模となりました。

昭和62年6月22日満83才の人生の幕を永遠に閉じられたのだった。正義の味方、熱血漢、正しいことが大好き、曲ったことが大嫌い、常に清貧に甘んじ個人的な大きな望みや欲は一切なし。灯のつく頃、時には屋台のノレンをくぐって一番安い酒を一番安いサカナで飲む……これは先生のストレス解消のさきやかな楽しみの一つではなかったろうか。

× × × ×

先生の想い出はたくさんあると思うが、その殆んどは忘れてしまった。その中で私との係り合いの一つの思い出は、たしか私が4年生の時だったと思う。毎日定った時刻に学校へ出かけて行き、定った授業をうけて定った時刻に帰って行く。このパターンにあきあきしていた私は一体何のためにこんなことをしているのか、何があるというのか、実におろかしいことを何の疑いもなく、何の考えもなく繰り返していると思えて仕方のない日が続いた一時期があった。「そうだ、先生に相談して見よう」腕組みをして自分の部屋で考えこんでいた私は、そうと気がつくやいなや先生の家にスッ飛んで行った。たしか夕方の食事時刻だったと思うが、そんなことは全く配慮するともなく先生の家の門をたたいた。頂度先生は家に居られた。

「なんだ、今頃…どうしたんだ…まあ上れ」早速私は悩みを打ち明けて話した。「うんうん」とうなづ

しかしながら、来年度から一転して減少に転じ、昭和75年には現在数の6割に落ちこむという厳しい情況であります。私学ではこの点に関して、非常な危機感をもち、急減期対策をいたしておりますが、本校も例外ではありません。

対策の第一はいうまでもなく、魅力ある学園づくりであり、教育の質の向上であります。進学状況は決してよいとはいえないが、それでも今年は開闢同立に現役が頑張って合格しましたし、就職も大体順調に納まりました。德育についても、難しい現状を踏まえながら地味な教養教育を続けています。

クラブ活動も相変わらず盛んです。野球の甲子園出場、サッカーの夏・冬全国大会出場、水泳・リレーで全国第3位入賞をはじめ、多くの部が大阪8位以内の実績と実力をもって、一層の飛躍をめざしています。

以上、皆様の母校北陽は、その伝統に則って、堅実に前進しております。何卒今後ともご叱正・ご支援の程お願い申しあげます。(母校校長 林 敏夫)

き乍ら先生は聞いてくれた。

「君の考えていることはよく分った。尚よく考えて見よ」たしかこんな風に言われたと思う。

× × × × ×

ずっと後になって、私は私なりに結論を見つけ落着したんだが、先生に御礼を言った時、「そうか、よかったな、立派な悟りだよ」と言われて私の肩をたたかれた。「いい先生だなア」私は心深く思ったものである。

× × × × ×

戦後母校が経営のドン底に落ち込んでいた頃、松田・高月両先生から母校再建のいい考えはないか、と相談を受けた。

当時は私も若く30才位だったと思う。この当時のことは余り語れないので、書かないことにすると、この時以来私は母校問題から手を引くことにしたのだが、先生は「君がやめるのなら俺もやめる」と毅然とした声で私に言られた。「いや先生はやめないで残つて下さい」私は一生懸命たのんだが、先生の意志は固かった。ふり向くもせずその時以来先生は母校を去られたのである。その後何人かが先生に母校へ帰られるよう頼みに行つたが遂に帰っては来られなかった。

× × × × ×

ひたすらに先生の御冥福を祈つて止まない。

(S14年卒業 藤井文太郎)

故高月泰雄先生の想い出

63年度第11回代議員会は6月25日(土)―― 新大阪ガーデンパレスにおいて開催

本年度から同窓会支部の結成促進と本部との連携を密にすることになり、代議員各位の一層の協力をお願いすることになった。

これは代議員会に先立って理事会を開き承認されることになっている。

昭和62年度 北陽同窓会会計決算報告書

(収入の部)

自62.4.1 至63.3.31

科 目	予算額	収入額	備 考
会 費	1,725,000	1,722,000	
受 取 利 息	250,000	231,727	
名 薄 売 上 代 金		20,200	
理事・代議員個人提出金		295,000	
会 報 会 計 より		231,134	
前 年 度 繰 越 金	8,211,602	8,211,602	
計	10,186,602	10,711,663	

(支出の部)

科 目	予算額	支 出 額	備 考
理事・代議員会議費	800,000	617,491	
学校への協力金	200,000	200,000	
人 件 費	500,000	521,500	
旅 費・交 通 費	80,000	20,720	
消 耗 品 費	100,000	72,070	
通 信 費	100,000	85,600	
印 刷 費	50,000	48,800	
備 品 費	60,000	48,000	
支 部 育 成 費	50,000	30,000	
慶弔 費	100,000	77,500	
予 備 費	200,000	329,360	
次 年 度 繰 越 金	7,946,602	8,660,622	
計	10,186,602	10,711,663	

昭和63年度 北陽同窓会予算案

(収入の部)

自63.4.1 至64.3.31

科 目	62年度決算額	予算額	備 考
会 費	1,722,000	2,710,000	
受 取 利 息	231,727	220,000	
名 薄 売 上 代 金	20,200	0	
理事・代議員個人提出金	295,000	295,000	
会 報 会 計 より	231,134	0	
前 年 度 繰 越 金	8,211,602	8,660,622	
計	10,711,663	11,885,622	

(支出の部)

科 目	62年度決算額	予算額	備 考
理事・代議員会議費	617,491	800,000	
学校への協力金	200,000	200,000	
人 件 費	521,500	550,000	
旅 費・交 通 費	20,720	80,000	
消 耗 品 費	72,070	50,000	
通 信 費	85,600	100,000	
印 刷 費	48,800	50,000	
備 品 費	48,000	50,000	
支 部 育 成 費	30,000	50,000	
慶 弔 費	77,500	100,000	
予 備 費	329,360	200,000	
次 年 度 繰 越 金	8,660,622	9,655,622	
計	10,711,663	11,885,622	

職場訪問

毎日新聞社と北陽高校

大阪での毎日新聞は明治9年、最初の政論新聞として創刊された「大阪日報」に遡る。

明治15年、日本立憲政党新聞に改題したが政府の弾圧を受け、再び大阪日報に戻り、今から100年前の明治21年、地元の期待を担って「大阪毎日新聞」として再出発、平民宰相、原敬が社長をつとめた後、中興の祖、本山彦一社長が部数を大量に増やし「大毎」の名で読者から親しまれた。

明治44年東京へ進出、明治5年東京で初めて発刊された、我が国最古の「東京日日新聞」と合併、大毎、東日の時代は明治、大正へと続き、昭和18年題字を「毎日新聞」に統一され現在に至っている。

その間、各種文化事業、社会事業、スポーツ大会を主催、今年の選抜高校野球60回大会に母校が5回目の出場を果し、健闘を期待したが初戦で敗退したのは残念であった。

また現在の社屋は大正11年に建てられた大林組自慢の建物であったが、66年を経過しており、老朽化のため、昭和67年完成を目指すにJR大阪駅西側の西梅田地区に敷地1万360平方メートル、地下4階、地上16階、高さ75メートル、床面積6万2千平方メートルのビルを建設、文化、国際、情報の拠点としてスタートする予定です。

さて毎日新聞社には母校のOBが多数活躍され、その足跡は偉大なものがあります。

まず福野同窓会長(S10年)は関大法文学部を卒業、直ちに毎日新聞社に入り、社会部記者を振り出しに

社会部長、編集局長、常務、専務を歴任、たまたま石油ショックの煽りで経営が悪化、寝食を忘れ再建に尽力され、その功績は内外ともに高く評価されている。昭和55年以来関西大学に転じ、副理事長としてご活躍中。傍ら大阪市教育委員長もつとめられた。

また毎日新聞社では昔から向学心に燃える苦学生を給仕として採用、給料のほか、授業料まで補助したと聞く。その殆んどは第二本科生(夜間部)で優秀な者は卒業後、社員に登用され、部長級以上の幹部に昇進された諸先輩は数多い。

なかでも、阪上寅蔵(S7年・故人)は営業局次長、近販社長、宮本益男(S9年・故人)広告局次長、万年社社長、S10年組では松田平次郎が東京広告局長、毎日広告専務、成瀬弘(故人)が経済部記者から毎日放送総務部長、五十川昌一が中部編集委員、藤井常夫(S8年)、多河美一(S14年)が編集事務部長、中谷一男(S13年)が中部読者相談室長、上良市雄(S15年)は編集委員等、何れも北陽商業第二本科出身で他の新聞社に例を見ない。

なお現役の諸君を紹介して今後の活躍を期待したい。

制作部には福原功副部長(S28年)を先頭に藤井義行(S43年)、有馬好弘(S50年)、中川寿夫(S52年)、車両課に堂守輝邦(S40年)、画像部に箕内正昭(S39年)、輪転課に宮崎健二(S43年)、運動部記者に藤岡行弘(S48年)、発送部に岡部輝正、森田広(各S49年)、伊藤雅徳(S55年)、人事部に京極順(S44年)、丸山秀樹(S56年)等13名が中堅社員として頑張っている。(敬称略)

(S20年卒業 鶴川権治)

第八号会報協力者

第8号の協力者は下記の通りです。
ありがとうございました。

山本寛二、富室幹之助、松村豊、山口貞次、西垣友夫、下田忠雄、松田理一、多田光男、塙谷末一、杉本誠三、宇野稔、森井俊一、岡柳二、藤井常夫、米倉修一、金川庄次郎、金田一夫、東尾長治郎、岡田耕一、松本善治郎、芝芳三、奥山寅吉、上田仁一、山田利夫、林貞三、松田平次郎、西村貞彦、小宮茂、矢野勝三、北中啓治、田口勇、新井正之、吉田周次、山下嘉一、寺田弥三郎、松屋一穀、山本新造、味舌十七、西川雅敏、藤川重義、川本富三、森田寿一、新井敏男、田宮春雄、西口嘉彦、清野徹、焼浦作次、山本嘉三、坂本実、養老美雄、村田茂、奥野耕一、中村正夫、足立英二、中村清、伊佐見秀雄、神保俊弥、岸田喜與志、西村一男、高木種夫、浅田行雄、飯田久雄、藤本時男、山本敏男、曰村章一、巽五平治、藤木栄次、百崎和男、新井博、田畠源一、伊藤博、北川慶一、辻勝、木村不二雄、福武喜與次、笠松孝守、西山三男、奥田正道、塙見克明、福島敏夫、佐藤誠一、北窓久男、杉本次夫、津田義雄、勝原隆政、高田正昭、三宅利喜男、高田正明、龜田真守、森田昭治、高橋照男、松村昭作、井上三二、勝間秀

之助、法柏信明、内田二三男、石田修、三木憲三、角野吉昭、塙山信夫、寺西克美、一色義三、児嶋明、高井敏行、栗柄治、徳本幸治、山口保、蒲田良幸、柴田千秋、平尾秀雄、石松善次郎、武田清、井田力男、吉田健、岡田博、村元正明、仲川義一、吉田稔弘、柳原恒郎、小林光憲、酒井順、寺西実、十川裕三、堀口清一、渥美正博、村田正明、藤村峰夫、井沢秀二、小谷輝夫、城島未明、野本一彦、須上好行、本田彰、林時也、中尾茂、水田稔、佐野正和、成海健司、杉谷丸彦、岡本道男、金井克純、小山謙三、柄尾修一、佐渡利任、松本純一、茨木栄二、田尾逸雄、納多啓司、則本修、赤嶺信夫、石川行男、宮野孝雄、鈴木善治、大塚周二、池田一夫、横正芳男、尾上則昭、炭山重夫、山本利広、橋本幸弘、山下雅之、岡田彰、柴田久雄、長岡宏、出口幸男、島村昌樹、椎江博、中山倫一、山崎勝也、太田晃、渡辺一郎、永野悦次郎、向井竜也、鍋木力、湯城昌彦、吉田典生、松井勝博、角南佳宏、丸橋俊幸、オリエンタル酵母、川口重夫、伊藤学、後藤久、久保郁夫以上

(順序不同 敬称略)

同

窓

情

報

定時制43年・45年・46年卒業

3学年合同同窓会の世話人代表をしての感想

定時制43・45・46年卒業、3学年合同同窓会は昨年9月27日大阪梅田サン・エクセレントクラブ・オーサカにおいて開催されました。御来賓として林校長、松本、佐藤先生3名の御出席をいただき、百名近い参加者となり盛大裡に開催する事が出来ました事を大変うれしく思っております。私は代表として次のような挨拶をさせて頂きました。

梅田行電車が上新庄駅を離れてまもなく建物が途切れ、ストンと目の前が開け校庭に続きチョコレート色と申しますかドッシリとした建物が目に飛びこんできます。これが母校北陽高校です。歴史の流れ、社会の流れともいいましょうか、いつの間にか自分達の子供も高等学校に入る年齢に達しています。ふり返ってみると卒業後18年近くにもなります。私達の学んだ淡路の校舎(円型)(鉄筋3階の校舎)の姿は今はなくなってしまい、ただ当時急いでぐるり抜けた踏切の通学路が昨日のように懐かしく蘇えり、今も旧校舎の面影が心にしっかりと焼きついています。男女共学でありましたが(私事ですが25才で入学しました)皆んなはほんらかの事情で量は働き、夜は学ぶ想像もつかない困難が沢山ありました。その中を勉強をするんだという強い心の支えと頑張りの心によって卒業という栄冠を勝ち取る事が

出来ました。

卒業式の時、三雲校長先生が私達にはなむけの言葉として、学ぶ事、すなわち勉強を忘れない事、人の出会いを、すなわち人間関係を大切にする事、くれぐれも健康に留意する事、この三つを訓示されました。この事を、私は今でも忘れないで心のかてとしてがんばっておられます。

まとまりのない挨拶になりましたが最後に世話人の皆様方に何かとお力添い頂いたことを深く感謝いたしますと共に、母校の校長先生を初め諸先生方、同窓生の皆様方の健康とお活躍を祈ってやみません。

以上が私の挨拶の要約でございますが、この同窓会を開いて皆さんが初めての催で心より喜んでくれ準備の苦労もどこかへとんでしまいました。これを機会に、さらに輪をひろげて来年も開催いたしたいと思っておりますので、定時制の同窓生諸兄にはようしくお願ひいたします。

(S45年卒業 寺西一郎)



さつき 南紀行の月会



昭和62年12月13日・14日・15日の3日間、私達は2泊3日の近畿ツーリストのバスツアーに便乗して月会を開催した。

11月初め頃から案内状の作成等準備をはじめ、ツーリストと絶えず連絡をとりながらの作業で、費用の払い込みが完了するまで予約不可能なことから、先づ申し込みを受ける作業からはじめたところ、仕事で参加出来ない者11名、先約あり2名、病気療養中11名、返事のない者23名、都合で参加出来ない者5名で結果参加者8名、13日8時30分、ホテル阪神

前集合場で待ち合せ、全員揃った処で乗車一路南紀へ向う。御坊一切目崎一潮岬一串本の橋杭岩一湯川温泉のコースで初日は無事ホテルに到着、他のツアー参加者をも含め、誰か恰好の女の子でも居ないかなーなどと良からぬ事も考えながらのツアーで、愉快な事この上もない。

2日目は勝浦湾紀の松島めぐり一串本海中公園などを観光。3日目は新宮速玉大社一鬼が城を観光の後、尾鷲一松坂経由で一路大阪へ。旅行中は2日共部屋食で夕食、我々だけの宴会をもてた。古き良き時代の先生方もアダ名で話題の中に登場。教練の事、信太山演習の事、焼芋屋のねえちゃんの事、卒業旅行で旅館の女湯を行った事、戦争に参加した時の苦労話等、深更まで話題はつきず。

久方振りの歓談の機会を得て、持つべきものは友なりの感を深くした。

それにしても老人病というか、成人病と言おうか、これによる欠席者が年々増え、参加者が少くなるのは何とも淋しい事である。

誰かがいいた『健康は神から私に与えられた最高の贈りものである』が思いだされる。

写真は鬼が城にて撮影したものである。

(S14年卒業 日上泰光)

支
部
便
り

茨木市役所 北陽会第七回総会 親睦旅行記

茨木市役所北陽会は隔年毎に旅行総会と茨木市役所内での総会を行っております。

今年は新役員になり2年目を迎える北陽会への親睦総会を行いました。そして次のような日程で行なわれ最初は会に先立ち本年度の報告及び決議事項がなされました。そして引続き夕食会に入り夜の更けるのも忘れて過ぎし北陽時代、職場での出来事を語り合い、酒をくみかわしある心に心の中で母校と同じくする者の集いだけでなく、後輩のために役立つ集いでもありたいと念願しました。

日 程

4月23日 市役所前=名神・北陸自動車道=小松伊
12:40発
ンター・辰の口温泉
4月24日 ホテル=那谷寺見学=北前船見学=橋立
9:30 10:10~10:45 11:30~12:00
海岸・恵比寿亭
12:15~13:30
昼食=片山津インター・北陸自動車道・
名神=市役所
18:00
北陸/辰口温泉 たがわ龍泉閣



茨木市役所北陽会(会員名簿)

(昭和63年4月現在)

昭和63年度役員名

会長: 金沢喜佐男	副会長: 深本 美信
幹事長: 奥村 守	幹事: 小阪 良平
幹事: 森本 充明	幹事: 森田 忠彦
監査: 田中 博	監査: 池本 善昭

氏名	卒業	氏名	卒業	氏名	卒業
堀 順	25	田中 博	43	小林 聰	47
小川 清仁	30	深本 美信	43	中尾 弘志	48
仲川 義一	34	寺本 勝美	43	下田 賢司	48
中野 正雄	37	森本 充明	44	西林 肇	50
段野 清良	37	奥村 守	44	麻野 貴道	53
金沢喜佐男	37	石田 重昭	44	宮本 幸三	55
小阪 良平	39	池本 善昭	44	吉里 道博	20
久保 邦彦	41	広瀬 三久	44	田中 春之	20
井上 靖彦	41	矢頭 繁春	45	松城 友一	21
宮本 順	41	森田 忠彦	45	田中 石田	22
広沢 葦	42	竹本外茂次	45	古八 均	42
		福田 修身	46		

同

怒

情

報

(つづき)

北陽商一会(第1回卒業)第7回同窓会

去る62年11月7日京都嵐山「花のいえ」にて開催。当時は恩師の元校長八沢先生と同窓会事務局長角野先生の御出席を頂き有意義なお話しを聞かせて頂きました。

会員の参加は9名でしたがお互い80才に近い年令

~杉浦先生を囲んで~

杉陽会は特別例会を3月20日の日曜日、長岡京市・光明寺山門横の豆腐料理「いっぷく亭」で開きました。

特別例会などと、大げさな言い方になったのは、杉浦先生が3月いっぱい定年退職されることになったからです。人生の半分以上を北陽の教育一筋にうちこんでこられた先生に、感謝とねぎらいの思いをこめて開かれた例会だった、ということです。

京都祇園の舞妓さんの手で、われわれのこんな思いをこめた花束と記念品を、先生にはもちろんのこと、奥様にもお贈りしました。どういうわけか、われわれはこれでほっとしましたが、先生の胸の中は果してどうだったでしょうか。

「何とか杉陽会の会報を出したい」とおっしゃった先生のご挨拶のあとは、いつも通りの楽しい宴です。

ですが皆元気で参加出来た事を喜び合い昔を偲び乍らのおしゃべりは時間が経つのも忘れる有様で楽しいときを過し次回再会を約し閉会致しました。

尚当日の参加者は会長藤田忠男、中田永一、中井勲、千原勇、岩永清治、木村勘助、藤田武雄、中尾喜一、松村豊。

幹事 松村豊 記 (電話0798-48-2255)

いや、いつもより華やいだ宴でした。

しかし、ここ1、2年の間に、3人も夜見の国へ旅立っています。せめてこのあとは、誰一人欠けることなく、みんなで一先ず還暦を祝いたいものです。

最後はしっかりと堅い人垣で輪をつくり、校歌を齊唱してお聞きにしました。北陽の発展と一人ひとりの幸せを念じつつ。

(S30年卒業 中島明信)



母校クラブだより

第60回選抜高校野球大会を顧みて

北陽高等学校 部長 奈良 由次
硬式野球部



野球に限らず勝負事にはクジ運が大きく左右する。決して強力チームと思えなかった今年の野球部の場合もせめてよいクジ運に恵まれて何とかベスト4に残りたいと思っていた。ところが抽選の結果、三回戦此花学院、四回戦PL、五回戦東海大仰星と強豪ばかり、前門の虎、後門の狼どころではなかった。しかし勝負に弱気は禁物、気をとりなおして大会に臨んだ。

一回戦対登美丘には5-2と地力の差で快勝、二回戦は春日丘、なかなか粘りのある好チーム、9回裏猛反撃にあい1点差までつめ寄られたが5-4で辛うじて逃げ切る。前途多難。

三回戦の相手は猛打の此花学院、北陽投手陣が3本轟打を喫し一旦は逆転を許したが7回に北陽魂で猛反撃、9-6で逆転勝ち。四回戦の相手はいよいよPL、1回裏いきなり1点を奪われたが3回に竹川の2轟打、石崎四球の後重慶に成功、岡村のスクイズで同点橋本の左前打で逆転したが5回に同点に追いつかれて「やっぱりだめか」の不安がよぎる。しかし7回に入り松岡監督の機動作戦が見事に的中してPL内野陣をかく乱、打者一巡の猛攻で一挙4点を奪い、守っては弓場の好投と北陽守備陣の堅守で6-2とPLに快勝、これはいけるかもと大きく希望がふくらむ。五回戦は強敵東海大仰星、前半2点のリードを許し危うかったが6-7回に猛反撃、10-4で下す。点差は開いたが大変苦しい試合だった。

準々決勝は公立の強豪富田林、北陽打線が火を吹き弓場が5安打をおさえる好投で7-0七回コールド勝ち。そして準決勝は近大付、好投手笹垣の前に0-5で完敗、最後の望みを3位決定戦商大堺戦にかける。

ところが商大堺のアンダーハンド投手出口に対し北陽打線は全くタイミングがあわない。守っては13安打を浴び毎回ランナーで攻めたれられ必死の防戦、しかし松岡監督の勝利への執念はすさまじく7度の投手交代でピッチをしのぐ。延長12回苅田、石崎のヒットエンドランが的中、辛うじて3-2で逃げ切り、近畿大会出場の切符

**62年全国高校選手権出場に続き
63年全国高校総体(於兵庫県)
大阪府代表に出場が決る!!**

—めざましい記録—

【サッカー部】

本年度に入りまして早々四国放送盃(西日本サッカーフェスティバル)で優勝。春休みの試合で清水東にも勝ちました。現在本年度学校総体の大代表を競う試合が行われ高槻南を破って代表に決定しました。

62年度全国選手権のニュースです。(第66回大会)

一回戦でもっとも注目を集めた因縁の東京・大阪対決、帝京一北陽戦に1月2日の西が丘は超満員にふくれあがつた。

キックオフからわずか45秒、左サイドでFKを得た帝京は磯貝がゴール前に高く上げると、北陽DFがヘッドでクリア、しかしふルティーエリア外にいた森山がこれをボレーシュート、DFに当たるも勢いは消えずにご

【野球部】

手にした。

近畿大会一回戦は兵庫一位の神港学園、北陽の先制攻撃が見事に決まり橋本の本轟打などで4-2と快勝、二回戦は滋賀1位の野洲、5回北陽内野陣の乱れから3点を先行されたがジワジワと反撃4-3で振り切った。この時近大付、上宮とも順調に勝ち進んでおり、北陽は近畿のベスト4に残ってもまだ甲子園に手が届かない状況だ。全ては準決勝上宮戦の結果にかかってきた。ところが強打上宮の前に5回で7-3とリードを許してしまった。ついに甲子園の夢は断たれたかと思った次の瞬間満塁で上田の2打席連続本轟打が飛び出した。ベンチは蜂の巣をついたような騒ぎ、その後追いつ迫れつの熱闘が続いたが9回ついに力つき8-9のサヨナラ負け。

全て終った。あとは2月1日の選考を待つのみとなつた。「大阪3校は無理だろう」、「いや成績から見て選ばれて当然だ」長い長い2ヶ月半だった。50年ぶりの大阪3校が実現した。

甲子園出場に際し皆様から多大の御支援、御指導を賜りまして本当に有難うございました。

選手達は精一杯頑張りましたが、力及ばず第一戦で東邦高に破れ皆様のご期待に添い得ず申証なく存じております。

今後は、この教訓を生かし皆様のご期待に添うべく更に精進を重ねる所存でございます。今後共一層のご支援、ご指導を賜わります様お願い申し上げます。



前列左から ▶弓場・久々宮・石崎・竹川・橋本 / 中列 ▶辺・岡村・上田・尾方・米沢 / 後列 ▶竹ノ内・高尾・太田・佐野・刈田



第66回大会大阪代表 私立北陽高等学校(7回目)
一ルへ飛び込んだ。さらに11分には、池田が左サイドに出てあげたセンタリングをまたも森山がヘッドで合わせ、ポストに当たってはね返るところを自ら結めてけり込み2-0。その後も帝京は前半のうちに3度の決定的チャンスを作るが、これらは実らず2-0で終了。ところが、後半にはいると北陽が奮起し、44分に田村のシュートで1点を返すと猛攻に転じた。しかし、帝京ディフェンス陣もこれをよくしのぎ、結局2-1のままタイムアップ。帝京は辛うじて第一の難関を突破し、北陽はまたしても宿敵の前に涙を飲んだ。一回戦にはあまりにも惜しい対戦だった。

母校クラブだより(つづき)

【テニス部】

テニス部は過去軟式テニス部としてインターハイ選手を数多く出した大阪では有名な部がありました。その実績を基本として2年前に硬式テニス部として発足した新しいクラブです。コートは第2グランドにあり、昨年度にナイター設備の整った他校にはない恵まれたコート3面を使用しています。

【水泳部】

顧問の石坂先生のもとで活動しています。ここ7年ほど前からインターハイにも出場し、良い成績をおさめています。

昭和60年には、国民体育大会に2人選ばれています。その後61年に2人、62年に4人も選ばれています。昨年は、いろいろな試合で上位に進出しました。大阪大会では総合3位、近畿大会総合3位、リレー

今までの硬式テニス部の戦績については、各大会の予選から本選に出場しています。水口杯ではダブルスが本選3位と4都市(大阪・京都・滋賀・奈良)よりあつめられた選手の中からダブルスの部で準優勝を果たしています。今年は新2年生も期待されています。顧問の岩内先生をはじめ、吉谷先生の厳しくかつ優しい指導のもとで作りあげられてきた元気あるクラブです。

では1位、インターハイ・リレー3位など、今までの中でも最も良い成績を残しました。年々個人個人の力がレベルアップしてきているのですが、チームとしてのレベルもあがってきており、とてもよいチームにできあがっています。

今年の抱負としては、チーム一丸となって、昨年にひけをとらない成績を残し、それ以上のチームを作っていくかと思います。よろしくおねがいします。

【バスケット部】

バスケット部は、58年度に北地区で優勝し、大阪でもベスト4に入り、59年度・62年度とベスト16。

また、今年の新人戦でベスト8という成績を残しています。3年生6名、2年生8名と少数ですが、顧問の河合先生・大田先生のご指導のもとで全国大会出場を目指して、日夜練習に励んでいます。

【ラグビー部】

学期中は淀川の堤防で練習を行い、春、夏には神鍋において1週間の強化合宿がありますが、その

時でも部員同士が助合い、技術の向上をはかっています。その結果昨年度、全国大会大阪予選ではベスト16に残ることができました。現在部員は55名程度でがんばっています。

【バレーボール部】

バレー部は、大阪府にある約200~220チームの中で常にトップ争いに含まれています。これまでに60年の秋の部別大会から10回連続1部優勝をなしとげ

近畿大会にも6回の出場をほこり、その他私学近畿大会にも6回の出場を果たし、数多くの実績をもつておらず、何とかこの伝統を守っていき全国大会出場を目指してチーム一丸となって毎日練習に励んでいます。

【軟式野球部】

全国大会挑戦 今年はやるゾ!

昨年7月、全国高等学校軟式野球選手権大阪大会で本校軟式野球部は準優勝を飾った。しかし、59年の八尾高、61年の市岡高との決勝戦に続く3度目の苦杯であった。今年も夏の大会にもむけて新たな気持で選手たちはスタートした。昨年のメンバーが5人

も残っている。チーム力も昨年と同じものを持っている。淀川の堤防で暗くなるまでボールを追いかける選手たちに4度目の挑戦をさせてやりたい。卒業生、皆様方の力強い御声援をお願い致します。

——昭和62年全国選手権大会大阪予選戦績——

- | | |
|--------------|---------------|
| ①北陽 5-0 住吉高 | ②北陽 4-0 食品産業高 |
| ③北陽 4-1 高槻南高 | ④北陽 1-0 泉尾工業高 |
- 準決勝 北陽 6-2 大産大高
決勝 北陽 1-2 大阪商業高

第60回 選抜高等学校野球大会出場の御礼

同窓会員の皆様には、ますますご清祥のこととおよろこび申し上げます。さて、このたび北陽高等学校野球部が第60回選抜高等学校野球大会に出場するに際しましては、物心両面にわたるご芳情、ご声援を賜わり、まことに有難く厚く御礼申し上げます。

このご芳情をもとに応援態勢も整い、甲子園に出場することができましたが、第一戦で不運にも東邦高校に破れ皆様のご期待に添い得ず、申し訳なく存

じております。しかし、選手は正々堂々と強敵に対し、高校生らしく精一杯闘ったと思います。

今後は、この大会で得た教訓と体験を生かし、精進を重ねて皆様のご期待にこたえたいと思っておりますので、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

会長 植野治兵衛
校長 林敏夫

本部事務局便り

会報「第9号」発行

早いもので、今年で、会報「第9号」発行となりました。その陰には多数の同窓生諸兄から励ましの言葉や協力金をお寄せいただきましたことを厚く御礼申し上げます。今後、増々内容を充実させ、皆

様方のご支援にお答えした「北陽同窓」をお届けしく存じます。ご意見・ご感想がございましたらどしどし同窓会本部までご連絡下さい。

尚、どこの同窓会もそうですが、会報の発送費の激増に苦慮いたしております。はなはだ厚かましいお願ひですが、会報と同封の振込書にてご協力金を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

同窓会名簿再発刊決る!!

同窓会員の皆様には、ますますご清栄のことと大慶に存じます。平素は同窓会発展のためにご尽力を賜わり有難く厚く御礼申し上げます。

さて、現在同窓会本部では、「同窓会員名簿」を今年11月発刊に向けて、編集を進めております。前回(58年)名簿発刊から早や5年を経過しました。この間、卒業生による会員数の増加により、総数23,000名にも達しております。

また、結婚・転勤・転宅・地名変更等、名簿の変更も相当数みられますので、ここに改めて、会員の現況をより把握した「会員名簿」を作成いたしまして、同窓の親睦・同窓会活動の発展にお役だていただければと編集に努めている次第です。

つきましては、事務局より「会員確認書」をお送りいたしますので、是非、ご協力の程をお願いいたします。また、従来名簿欄で消息不明となつております方で、正しい住所をご存じの方は、ご面倒で

も事務局までご連絡下さい。

尚、名簿発刊の莫大な出版諸経費は、広告掲載と名簿販売の収入だけでまかなっておりますので、その点ご賢察の上、まことに心苦しいことではございますが「会員名簿」の購入、広告掲載のご援助を是非お願いいたします。

~記~

1. 名簿の販売価格	@ 4,000円
	(送料・振替手数料含む)
2. 広告掲載料金	特別頁 1頁 100,000円
	(表紙裏等)
	一般頁 1頁 50,000円
	タ 1/2頁 30,000円
	タ 1/3頁 20,000円
	タ 1/4頁 15,000円

0797-73-2121

横町 寛治 〒636 生駒郡平群町桜原綠ヶ丘26-57

07454-5-6285

●代議員物故者 (S62~63)

増田 直幸 S62.8.7 遊去

犬飼 兵一 S63.1.8 遊去

教職員動静

●退職者 (63年3月31日退職)

杉浦慶之助 〒563 池田市栄町5-3

0727-51-2576

儀 和弘 〒665 宝塚市野上3-5-15

去る4月24日成田を飛び立ってサイパンに向った。海軍時代の仲間を中心とした一行40数名の中に私も加った。観光ではなく慰靈行である。南太平洋のド真ん中に白いサンゴショウに囲まれた緑の小さな島々の一つであるが、この島での激戦のあと、玉砕して行った陸海軍将兵、そして軍属、更にはそれらの人々の家族、みんな殆んど自決したのであった。その数約4万8千人といわれる。パンザイクリフトはじめ外に2ヶ所いづれも断崖絶壁の追い詰められてもう逃げ場のない處である、次々とこの崖から飛び降りたのである。現場は殆んどそのままで40数年前とは變っていない。痛ましき限りである。申し訳なさに一寸した塔を立てて済ませている状態であるが、これは誰が立てた塔や碑なのであろうか、日本政府がお粗末な碑を立てているのは一ヶ所あったが、遺骨の方はそのままとしか思えない状況を胸深く察知

サイパン物語

できる。うっかりその辺で立小便しようものなら遺骨に振りかけているかも知れないのだ、壮烈な白兵戦が行われたのである。敵方の米軍も約2万人の将兵が血を流した。或は私は気がつかなかったかも知れないが米軍も戦死者の慰靈のための碑や塔が立てられているようでもない。はっきりいえば今日まで何もされてなく放置したままといつても過言でもなきそうである。そうした中にあって遺族であろう現場のあちこちに石や小さな石碑を立てていたが、その数はわずか50にも満たないものであった。慰靈祭が終ったあと私が持っていた酒と同期の山田君が送って来た水を現場にふりかけるようにしてまたのだったが、一つ一つ手を合わせてこれらの石碑を掸んでいるうちに小さな碑に文字の刻まれているのを見てギックリとした。それにはサイパン高等女学校生徒職員殉難の碑とある。即座に思ったことは沖縄のひめゆりの塔が表とすればここサイパンの女学生は裏になるなあということであった。

(S14年卒業 藤井文太郎)

同窓会会則

第1章 総 則

第1条 (名称) 本会は北陽同窓会と称する。

第2条 (目的) 本会は会員相互の親睦を図り母校の発展に寄与すると共に社会公共に貢献することをもって目的とする。

第3条 (事業) 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行なう。

1. 会報及び会員名簿の発行

2. 総会の開催

3. 母校の発展に寄与する事業

4. その他必要な事項

第4条 (本部及び支部) 本会は本部を北陽高等学校同窓会室におく、支部は必要な地域又は職場に設けることができる。本部に事務局を置き本会の事務を処理する。

第2章 会 員

第5条 本会の会員は次の通りとする。

1. 正会員(1)北陽商業学校、北陽工業学校、北陽中学校及び北陽高等学校の卒業生

(2)上記学校に在学した者で理事会の承認を得た者

2. 特別会員、母校の現職員並びに旧職員

3. 名誉会員、母校もしくは本会に特別の関係ありと認め理事会で承認を得た者

第3章 役員及び役員会

第6条 1. 本会に次の役員を選く

(1)名誉会長1名(母校の現校長)

(2)会長 1名

(3)副会長 3名以内

(4)会計 2名

(5)監事 2名

(6)事務局長 1名 事務局次長 2名

(7)理事 若干名

(8)代議員 若干名

(9)顧問、相談役 若干名

2. 役員の任期は3年とする。

但し再任を妨げない。

第7条 1. 会長は代議員に於いて選出される。

2. その他の役員は会長これを委嘱する。

第8条 (任務) 1. 会長は会務を総括する。但し緊急必要案件が生じ代議員会を召集するいとまなき時は理事会の議を経て会長これを先決する事ができる。

2. 副会長は会長を補佐しその代理を務める。

3. 会計は会の財務を処理する。

4. 事務局長は本部事務局を組織し、会長の指示を受け、会に關する事務全般を処理する。

5. 理事会は会務を執行し会の運営上別に内規を定める。

6. 代議員会は次の事項を審議する。

(1)事業計画及び予算の承認

(2)事業報告及び決算の承認

7. 理事会及び代議員会の議事は出席者の過半数をもって決し可否同数の場合は議長これを決する。

8. 監事は会計を監査する。

第4章 会 計

第9条 本会の経費は会費寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。

第10条 本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日迄とする。

第11条 (会費) 本会の正会員は会費を分担するものとする。

第5章 総 会

第12条 総会は会長これを召集し代議員会をもってこれに代える事ができる。

第6章 支 部

第13条 本会は支部を設ける事ができる。支部長は支部を統括し本部にその会則役員名その他重要事項を報告し連絡を密にしなければならない。

第7章 会則変更

第14条 会則の変更をしようとする時は、会長は理事会の議を経て総会の承認を得るものとする。

第8章 附 則

第15条 その他定めなき事項は会長が理事会にはかり、これを決定する。

第16条 本会則は昭和54年9月22日よりこれを施行する。

貸倉庫業

モータープール

平野正勝 (S18年卒)

平野耕治 (S49年卒)

豊中市南桜塚2-2-26

電話 (06) 852-5254

輸入洋酒専門

株式会社 トサ屋

牧野商店

牧野雅男 (S13年卒)

大阪市南区千日前1丁目5番18号

電話 (06) 213-6605

とうふ料理

いっぷく亭

〒617 長岡京市栗生西4の1
(栗生光明寺山門左)
電話 (075) 354-7777
(庭園火曜日定休日)

良心的な建築を誇る中亀グループ

建築工事一式 宗教建築 分譲地

中亀建設株式会社

代表取締役 中田登 (S30年卒)

本社 / 〒533 大阪市東淀川区東中島5丁目28番17号

電話 (06) 322-1419・325-1419

京都営業所 / 京都府向日市寺戸町西田中瀬1番地(阪急東向日駅前)

電話 (075) 921-4419

肉料理

千成

〒530 大阪市北区角田町1-5-15

(第一相撲場前)

電話 (06) 341-2129

(日曜・祝日定休日)

<p>吹田市会議員 阪 本 隆 夫 (S 15年卒) 吹田市南高浜町14-8 電話 (06) 381-0276</p>	 <p>白鶴酒造株式会社 常務取締役 山 中 茂 (S 17年卒) 本社 神戸市東灘区住吉南4-5-5 電話 (078) 841-4101</p>
<p>兵庫県会議員 加 茂 勉 (S 20年卒) 〒666 川西市中央町11-15 電話 (0727) 59-8890</p>	<p>建築材料一式・屋根工事 (株)豊島商店 代表取締役 豊 嶋 高 志 (S 41年卒) 大阪市東淀川区西淡路5-21-25 電話 (06) 322-6085・0488</p>
<p>前吹田市議会議員 杉 本 庄 七 (S 25年卒) 吹田市垂水町1-57-37 電話 (06) 384-8016</p>	<p>株式会社 う を 清 本店料亭・大阪市東区北久太郎町5の18 電話 (06) 252-7300~2番 西区立堺堀・千里中央・千里セルシ・虹のまち 新大阪駅・鴻池駅前 代表取締役 津 田 真 治 (S 16年卒)</p>
<p>不動産仲介全般 岡 本 商 事 (株) 代表取締役 岡 本 治 (S 42年卒) 電話 (06) 328-2121</p>	<p>ケンコー薬局 代表者 山 本 義 夫 (S 30年卒) 高槻市松ヶ丘2-4-27 電話 (0726) 87-5295 (0726) 85-8300(自宅)</p>
<p>塗装工事請負・看板製作一式 近畿郵政局・吹田市指定業者 寺 田 美 研 寺 田 賢 作 (S 42年卒) 吹田市高浜町4番7号 電話 (06) 381-2401㈹</p>	

<p>北陽同窓会会长 稻野治兵衛 (S10年卒)</p>	<p>毎日新聞社 調査審議室特別嘱託 鶴川権治 (S20年卒) 川西市緑台4-8-25 電話(0727)93-3917</p>
<p>川砂、建築材料一式販売 (株)三野商店 代表取締役 三野英男 (S30年卒) 吹田市南高浜町35-1 電話(06)383-0062</p>	<p>岩木栄一 (S28年卒)</p>
<p>お申込み・お問合せは 京阪交通社 修学旅行センター 東 朗 (S46年卒) 電話(06)228-1691</p>	<p>シンワ印刷所 坂本嘉孝 (S34年卒) 大阪市城東区成育5-21-11 電話(06)931-6618</p>
<p>松城石油(株) 代表取締役 松城友一 (S20年卒) 茨木市稻葉町19-15 電話(0726)34-0155</p>	<p>小川昌雄 (S18年卒)</p>
<p>昭和18年卒業 北陽商業学校第一本科 第16回卒業生同窓会有志 世話人 真壁和義(一夫) 電話(06)321-0025</p>	<p>昭和17年卒業 北陽商業学校第一本科 第15回卒業生同窓会(有志) 会長 北秋一 電話(06)852-5566</p>